



札幌市では健康医療分野のスタートアップ創出に向けて、学生や研究者などを対象に、『デジタル×バイオヘルススタートアップ連続講座』を行っています。2018年度は、「D2Garage(ディーター Garage)」と連携して講座を開催しました。

**株式会社 D2Garage**  
北海道内でテクノロジーを活用したプロダクトやサービスを有するスタートアップを育成するアクセラレータープログラム「Open Network Lab Hokkaido」の運営、道内のスタートアップ企業への投資事業を行う。(株)デジタルガレージと(株)北海道新聞社の共同出資会社

[PICK UP 受講生インタビュー]

## デジタル×バイオヘルス スタートアップ連続講座

2018年に参加した  
3名の受講者に講座の感想や、  
起業に向けた意気込みを聞きました。

- ・大久保 直登 北海道大学 大学院薬学研究院 特任助教
  - ・辰巳 怜 北海道大学 総合教育部
  - ・山田 将也 北星学園大学 経済学部 経営情報学科
- ◎進行  
藤間 恭平 北海道新聞社 営業局 営業本部 デジタルグループ  
※所属は受講当時のもの

2018年度  
2018年11月～12月 全6回

### 講座参加で受けた刺激と 人とつながる楽しさ

藤間 今回の講座ではこれから育つ若い人にも来てほしいと考え、学生さんにも積極的に声をかけました。辰巳さん、山田さんは起業に興味があるそうですが、そのうえでデジタル×バイオヘルスというテーマに何を期待しましたか？

### 札幌市の起業支援

# ライフサイエンス分野の 新事業創出・起業を応援

観光や一次産業の印象が強い北海道。その中で札幌市は、飛躍の可能性を秘めた医療分野の起業家へのバックアップを行っている。

辰巳 僕は「生きること」に興味関心があって。その中でヘルスケアって大事だなと。大学では工学部志望ですが、ITと関連付けやすいのがヘルスケア分野だとも思っています。

山田 祖母が認知症にかかったことをきっかけに、大学2年の時に介護系のビジネスモデルを考えました。僕の場合はそこにITを結びつけたビジネスアイデアがあるので、ブラッシュアップの機会になればと考えて参加しました。

藤間 社会人の受講者の中には事業計画書を用意している方もいましたが、大久保さんは「起業のためにアイデアを練った」という人とはまた違いますね。

大久保 僕は順序が逆。バイオヘルスの業界にいたので、研究開発を進めるうえでは資金調達などの知識もあった方がいいとの周囲の声もあり参加を決めました。現在研究中の歯根膜



D2Garage ビジネスデベロップメントマネージャー  
兼 北海道新聞社 営業局 営業本部 デジタルグループ  
藤間 恭平 ふじまきょうへい  
今回の講座の運営側として奔走。  
第6回ではワークショップの講師も努めた

幹細胞は再生医療にも関わりますが、実績の上がっている医療技術を患者さんにいち早く届ける手段として起業もありかな、という観点です。

藤間 印象に残っている講座は？

辰巳 5回目の「スタートアップのマーケティング戦略」です。今まで感覚的にしか捉えていなかったことが図表化されていて、さらに情報を付け加えて話してくれたのが面白かったですね。

山田 3回目の「超高齢社会への対応-次世代ヘルスケア産業の創出」は、僕のアイデアの背景にも合っているので一番興味深く聞きました。



PROGRAM

- 1.「スタートアップの0→1成長ストーリー」
- 2.「バイオヘルススタートアップの成功・失敗事例」
- 3.「超高齢社会への対応-次世代ヘルスケア産業の創出」
- 4.「バイオヘルススタートアップのトレンドと未来」
- 5.「スタートアップのマーケティング戦略」
- 6.「スタートアップを成功に導くアイデア検証とは」

【会場】道新プラザDO-BOX  
札幌市中央区大通西3丁目 北海道新聞社1階



運営・問い合わせ/  
公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター  
(ノーステック財団) 研究開発支援部  
TEL.011-708-6392

デジタル×  
バイオヘルス  
スタートアップ  
連続講座

大久保 同じ第3回で、「人間の生物学的な寿命は120年、だから健康長寿が大事」という話もあり、印象に残っています。これからは病気を直接治す医師だけでなく、大きな病気の元となる生活習慣を直す人たち、例えば栄養トレーナーとかスポーツインストラクターなどが重要な役割を担ってくるでしょう。そういう意味では口腔衛生も健康長寿に大きく影響するので、歯科医の立場としても関心の高い話題でした。

辰巳 あと、参加者同士で交流できるミートアップイベントが楽しかった！色々なバックグラウンドの方と打ちとけた雰囲気の中で話せて。人が集まることの醍醐味と思います。

藤間 楽しんでもらえてよかったです。人と人のつながりを作るのもこういう講座の役割の一つだと思っています。

### 札幌or北海道で起業する？ それぞれに描く“これから”

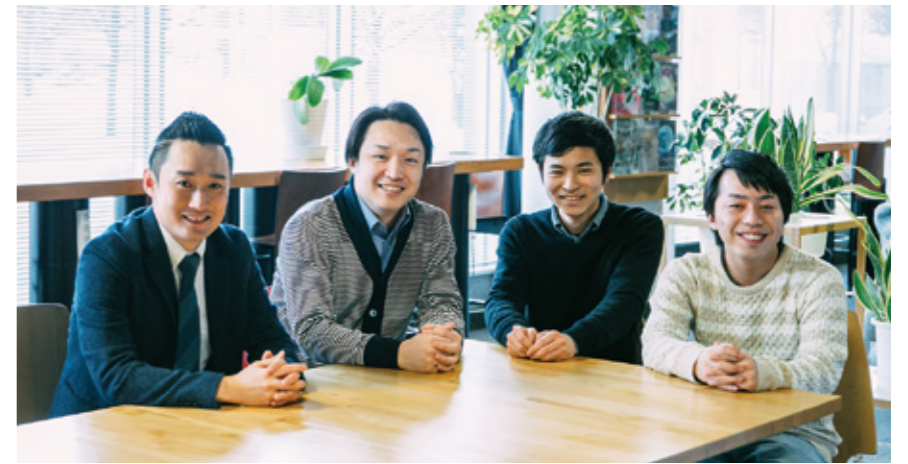
藤間 僕たちとしては札幌、あるいは北海道で起業する人を増やしたいのですが、地域としての魅力と今後の活動をどう考えますか？

山田 北海道は起業のチャンスやベンチャー気質がないと思っていましたが、講座を通じて、動いている人がけっこういるということがわかりました。僕のアイデアにはIT系の仲間が必要なのですがまだ見つかっていないので、ならばと自らIT系の会社へ一度就職して経験を積むことも考えています。

辰巳 京都出身の僕から見ると、札幌は人口の割に栄えていない気がします。アメリカだったら自宅のガレージで研究して開業というような武勇伝ができそうなくらい大きな住宅地が北海道・

札幌にはあるのに、それもない。でも、札幌って昔から10年単位ですごいベンチャーが出てきますよね。クリプトン・フューチャー・メディア(株)とか、最近では(株)インフィニットループとか。

大久保 僕の時代だとハドソンとかね。僕は岩手にいたこともありますが、北海道は全国的に



## IT×医療系起業家を 北の大地で育てたい！

見ても研究開発に与えられる予算が多い一方で、コンペの競争率はやや低いんです。さらに資源は豊富だし、ブランド力も大きいので起業に向いた土地であるはず。なのに、医療分野だと、北海道の資源や特徴を生かして研究している人は少ない。僕は関西人だからニッチを攻める気質。実は今の研究の中で、かなり実用化に近づいているものがあるんです。酪農王国ならではの牛に関わる研究で、今まで廃棄されていた素材や廃用牛までもが医療現場で役立つ可能性があります。実用化によって北海道の資源で医療に貢献し、地元経済の活性化につながる

北海道大学  
大学院薬学研究院  
特任助教  
**大久保 直登**  
おおくぼ なおと  
滋賀県出身。歯根幹細胞をはじめとした研究職に従事するかたわら、歯科医師として口腔外科治療の現場にも携わる



られたら、これほどうれしいことはありません。

一同 画期的な研究ですね！

大久保 さらに、製造環境の見学ツアーなどを企画することで観光面でも貢献できたいなと思っています。北海道の恵まれた清潔な環境の中で医療材料を作っていますよ、というように。いろいろな研究は進んでいるのに、有機的に他とつなげる人が少ないのが惜しい。

藤間 辰巳さんが目指す工学系で、もしバイオヘルスを取り入れるとしたら？

辰巳 今まさにヘルスケアビジネスを勉強中ですが、例えばスマートフォンで自分の活動データを毎日記録するサービスは、常にデバイスを身に付けておくのが面倒。意識せずにデータを貯められるような方法があれば、今は漠然と考えています。

藤間 皆さん、ありがとうございました。「デジタル×バイオヘルス」というキーワードでいろいろな人が集まった今回の講座は、僕にとっても刺激になりました。次の機会もぜひご参加ください！



北海道大学 総合教育部  
辰巳 怜 たつみれい  
京都府出身。2018年、大学進学と同時に札幌へ。専門課程は工学部を選択予定

北星学園大学 経済学部 経営情報学科  
山田 将也 やまだ まさや  
札幌市出身。起業の夢を描きつつ、スタートアップ企業への就職も視野に入れている

